

施設の公共化を契機として利用者同士の相互理解を推進



設置 北九州市 障害福祉企画課

運営 北九州市障害者スポーツセンター運営共同事業体
☎ (093) 922-0026 FAX (093) 922-0041

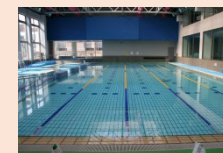
■所在地
・福岡県北九州市小倉北区三郎丸3-4-1

■アクセス
・小倉駅から車で約10分

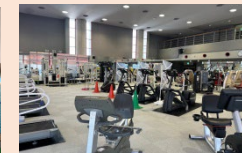
DATA

- 開設
・2012年
- 規模
・延床面積 10236.71 m²
- 総事業費（改修）
・約5億3千万円
一社会資本整備総合交付金
一障害者自立支援対策臨時特別交付金
一スポーツ振興くじ助成事業 合計約2億5千万円

■主な設備



プール
25m×5コース



トレーニング室



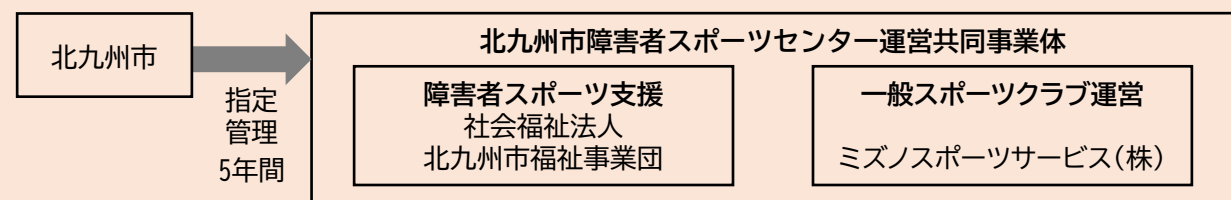
体育館
バレーコート2面



サウンドテーブルテニス専用部屋 2部屋

<その他>
・スタジオ
・卓球室
・多目的室
・会議室 など

■体制図



改修のための構想・計画

○民間スポーツクラブの活用

■既存利用者と障害のある方の利用の共存

- ・本施設は、市が所有する土地に20年の信託契約を結んだ民間スポーツクラブが運営していた施設であったが、土地信託契約期間が終了した際、解体費用節約を主目的としてスポーツクラブ側から建物無償譲渡の申し出があった。
- ・その際、市の旧障害者スポーツ施設が老朽化していたこともあり、民間クラブの申し出を受け、解体せずに市の障害者スポーツの拠点としてこの施設を整備することとなった。

- ・民間スポーツクラブを利用していた方にも継続的に利用してもらえるよう、障害のある方とない方が隔たりなく、ともにスポーツを楽しむ施設とすることを掲げた。
- ・スポーツ活動を通じ、障害者の体力の増強及び残存機能の維持向上、その他市民の心身の健全な発達に資することを目的として設置される。

改修等

○既存施設の改修

■障害のある方の声を反映した改修の実施

- ・民間スポーツ施設で、障害のある方への対応が不十分であったことから、改修等にあたっては、北九州市障害福祉団体連絡協議会に加盟する障害者団体からのヒアリングを行い、施設がより使いやすくなる改修を目指した。

<主な意見とその意見への反映>

- 「トイレへの距離が近いと安心感がある」
→館内に約10ヶ所のトイレを設置
- 「施設内のアクセシビリティの向上」
→使いやすいスロープ位置の設定、階段手摺りの左右設置
- 「過ごしやすい広い空間」
→障害者でも利用しやすい広いシャワー室の設置

- ・その他、旧施設よりも体育館、プールが拡張し、さらにプールは温水プールに変更。

- ・エントランスをはじめとした館内外のバリアフリー化に加えて、視聴覚障害者専用卓球室の防音工事、避難用スロープ設置等も実施。



管理・運営

○障害のある方・ない方が利用できるよう両方の機能を持つ施設運営

■施設において、共生をキーワードとした取組の展開

- ・既存の利用者を含めた利用者が継続的に利用できるよう、そして施設の収入にもつなげるため、一般向けに会員制スポーツクラブとしての機能も残し、北九州市唯一の障害者スポーツの拠点と、一般向け会員制スポーツクラブという2つ機能を有している。
- ・管理・運営において、「共生」をキーワードとし、障害のない方がある方に対する理解を深める取組を展開している。

■障害者の優先日の設定

- ・障害者にとって使いやすいスポーツ環境を構築するため、障害者専用の時間帯を確保している。（木曜日午後、土曜日午前・日曜日午前）



障害の有無、運動の種類に応じて色違いのバンドを装着することで、他の利用者に分かるようにしている。

「SKET」 (SPORTS KNOWHOW ENJOY TYEUP)

一般会員が障害者をサポートすることで相互理解を深めてもらおうという想いから、スポーツ大会を開催する際の受付やスポーツ教室の時にコート設営などサポートを行うボランティア活動を展開、一般会員から募集。

■普及啓発の各種活動の実施

- ・共生した施設を実現するために、様々なプログラムや研修等を展開し、障害のある方とない方が共にスポーツを楽しむ施設の実現を図っている。

○障害者団体のサークル活動

北九州市は、「ふうせんバレーボール」の発祥地であり、様々な障害者団体サークルが活動

○障害のある方とない方が参加できる教室

月1回ストレッチ教室が開催され、障害のある方とない方が無料で参加可能

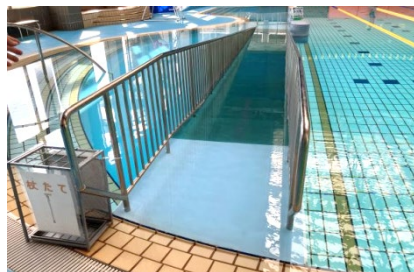
○施設スタッフや地域の学生向けの研修の実施

休館日に、病院の先生を講師として招聘し、障害のある方への理解醸成の研修を開催

プール

➤ 誰もが利用しやすいプールの環境を整備

一般的なプールでは、車いす利用者が入水できない。



3カ所にスロープを設置し、車いす利用者や足の不自由な方でも利用可。杖置きも設置し、プールでの移動しやすさを確保。

プールサイドの段差等は、滑りやすく、足の不自由な方や車いす利用者にとって障壁となる。



プールサイドにおいても、スロープを設置し、プール内のアクセシビリティを向上。

多目的トイレが外にある場合、いちいち着替えないと利用することができない。



プールサイドにも多目的トイレを設置することによって、すぐ着替えを行うことができない方でも容易に利用することが可能。

その他

➤ 安全・安心して、スポーツを「する」ことができる環境を整備

体育館を使用する際、転倒して頭を打つなど怪我のリスクが高い。



怪我のリスクを軽減するため、床面に、長尺弾性塩ビシート「タラフレックス」を採用

通常のトレーニングマシンでは、車いす利用者は、器具への乗降が大変である。



車いすに座りながら利用できるトレーニングマシンを複数機用意し、誰もが気軽にトレーニングをすることが可能。

視覚障害者は音や声を頼りとするため、音響効果が低い部屋ではプレイが難しいことがある。



音が明瞭に聞こえるよう音響設備工事を行い、サウンドテーブルテニス室を設置。

移動空間

➤ 施設内外のアクセシビリティの向上

施設内を移動する際、様々な障壁を有する利用者がある（足の不自由、視覚障害など）。



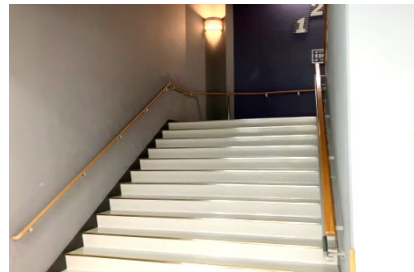
廊下には、点字ブロックと手すりを設置、また、人が通ると自動で声が流れる音声案内を設置する等、利用者のアクセシビリティの向上。

階段をのぼることが難しく、ひとりでは施設へ入館することができない。



改修時、地上からエントランスへのアプローチとしてエレベーターを設置。

階段の片側だけの手すりでは半身麻痺の人にとって使いづらい。



当初、右側しか手すりが設置されていなかったため、改修時に左側にも設置。

表示

➤ 誰もがわかりやすい表示の工夫

火災や地震などもしもの時、障害者を安全に避難させることができない。



改修時、建物外側に3Fから1Fまでの避難スロープを設置。

利用者の中には、漢字を読むことができない方がいる。



居室板の表記は、大きな文字として、漢字にはふりがなを付与。

緊急時、音声だけでは聴覚障害者に危険性が伝わらない。



緊急時、聴覚障害者が警報に気づきやすいように、改修時、各所にパトライトを設置。

共生するための取組



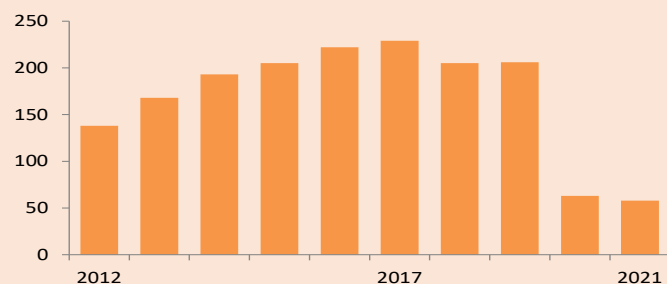
館内の多くの箇所に相互理解や障害者を支えることの必要性を啓蒙するポスターを掲示



毎月、一般向けと障害児・者向けのプログラムを開催し、様々な利用者が楽しめるような工夫を実施。また、各人の障害状況や体力に応じた専門的なスポーツ活動に関する助言や無理なく安全で楽しみながら継続できる活動内容の検討等を実施。

利用者現状

利用人数



- ・2012年の施設開設以来、利用者数は順調に増加。
- ・2018年、2019年は改修のためピークより利用者数が減少した。
- ・2020年、新型コロナウイルス感染拡大により利用制限を開始。

効果

- ・本施設で開催される様々な競技・サークル活動を通じて、一般に対して障害者行政への理解が進んでおり、共生社会の実現に寄与している。
- ・北九州市全体で、各施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインを進めるきっかけとなるなど、市政への波及効果も生まれた。

利用者Voice

- ・利用者の8割が「満足」と回答しており、誰もが利用しやすい施設を実現。

令和3年度施設全体の印象に関するアンケート調査
(障害者個人・団体、一般個人・団体計287名が対象)

